

## 保育サービス提供にむけて

### (1) 自分を信じる力、人を信じる力

子どもは自分の存在や思いを受け止めてもらい、愛されると感じながら大きくなっていきます。ありのままの自分を受け入れる人がいること、理解してくれる人がいることで新しいことに挑戦する力を持つことができます。失敗しながらもできるようになった達成感や満足感が自信につながるのだと意識して保育サービスを提供して参ります。

### (2) 命のはぐくみ

命の誕生は人に感動と喜びをもたらします。保育者は命と向き合うとき、感謝と畏敬の念を抱き続けていくべきと考えます。生きているものはすべて仲間であり、生き物や植物に触れる経験をし、命に感謝し、仲間や自然を大切にすることを子どもに育んでいきます。

### (3) 健康な体づくり

食事や睡眠、排泄、遊びなどの生活リズムが整えられ一日の生活がスムーズに流れることは、子どもの情緒を安定させ、からだを作るエネルギーの土台になります。

乳児期は発達に合った遊びを保障することで、周りに興味を持ち、手を伸ばしたり、ハイハイしたりして動こうとする力が体を発達させていきます。歩行完成してからはでこぼこ道や砂砂利、段差や階段などを歩いたり、引っ張ったり、押したりして歩くことが楽しくてたまらなくなる中で、バランスをとることを身につけていきます。

幼児期には散歩などを通して長い距離を歩くことや、戸外遊び、体育などを通して基礎的体力とぶつからないように周りを意識して走る力やスピードをコントロールする力など調整力が身につきます。できるようになったことや、頑張りを周囲の人に認められることは、一人ひとりの自信につながります。個々の年齢や発達に適した保育を実践して参ります。

### (4) 生活する力

生まれたときから愛情を注がれ、お世話をしてもらうことで、人への信頼が獲得されると、今度は自分でやってみたいという気持ちが芽生え、少しずつ自立へと歩み始めます。自立過程では「できないけどやりたい」「できるけど今はやりたくない」などの葛藤を経験します。その気持ちを受け止めてもらったり、認められたりしながら人との関係を学びます。「自分で出来ることに自信を持つ」「更なる一歩を踏み出す」

「できないことを人に頼み、やってもらったことに感謝する」「自分でできることを人にしてあげる」「人と協力し助け合える」などの態度や必要な習慣を身につけていけるよう支援します。

#### **(5) 友だちと育つ**

0歳～6歳までの年齢の異なった子どもが生活したり遊んだりふれあう中で年下の子が年上の子にあこがれ、色々なことに挑戦したり、年上の子が年下の子に優しくしたり、子ども同士で助け合っています。周りにいる友達に心を通わせていく上で欠かせない存在です。時に起こるぶつかり合いでくやしさを悲しさを味わうことでしょう。友達と日々生活し遊ぶ中で自分の思いを伝えたり、相手の気持ちがわかるようになり、折り合うことの大切を知ることで、次はどうしたらいいか考え乗り越える力をつけていくことができるよう支援します。

#### **(6) 自然の中で育つ**

子どもは生活や遊びの中でたくさんの自然と出会います。季節の移り変わりや身近な動植物と触れる中で、喜びや興味も広がっていきます。自然体験は感性を磨き、世話や観察を通し生命の大切を知り、季節の変化を楽しむことの素晴らしさを伝えてまいります。保育者や友だちと一緒に自然からの発見や感動を分かち合う中で人間関係も深まっていく事と思います。

#### **(7) 地域で育つ**

保育園の子どもたちは地域の中で育っていきます。散歩先で挨拶を交わすなど、たくさんの交流や関わりを通し、安心感、楽しさ、嬉しさを体験し地域と繋がっていきます。乳幼児期の温かな交流はそのような大切な心の育ちにつながっていきます。また、入園児のみならず、地域すべての世帯へ情報発信するなど、地域の子育て支援拠点となるよう努力して参ります。

#### **(8) 保育園は第二の家庭**

子どもにとって家庭はかけがえのない場所です。一日の大半を保育園で過ごす子どもにとって、保育園は第二の家庭です。保育園がくつろぎの場となり、保育者は保護者と同じように愛情を持って接していくことが求められています。また、働く保護者を支え、家庭と保育園が連携をとり、お互いに協力し補い合っていくことが、子どもたちの幸せにつながると考えます。